

教育実習に 向けて

教育実習の意義

明豊中学・高等学校

校長 岩武 茂代

1 はじめに

私は、子どもの頃から学校の先生になりたいと思ったことは一度もありませんでした。なのに、なぜ教師という職業についたかという、ひとつには第一希望の企業の入社試験に落ちたから。そして、もう一つは、とりあえず高校の教員免許だけは取っておこうと思って行った「教育実習」が楽しかったからです。つまり、教育実習で経験した生徒との交流、教えることの喜びは、その後の人生を決定づける程の力があつたのです。



2 教育実習の意義について

(1) 観察する。知る。理解する。

学生の皆さんは、教職に関する講義を通し多くのことを身に付けていると思います。教育実習では、学校の様子をじっくりと観察し、それまでに身に付けた知識や考え方を活かしたものとし、自身の力とすることが必要です。

観察のポイントとしては、児童・生徒の状況、教師の指導の様子、学校組織の状況、学校の特色、学校の課題、学校と地域との連携などがあります。よく観察をし、疑問点を確かめ、自分の頭でよく考えて理解することが重要です。

(2) 実践する。

教育実習では、授業、学級活動（ホームルーム活動）、学校行事、部活動など様々な実践活動を行います。どれも学校現場でしか経験できない活動であり、生徒と触れあう楽しい機会になると思います。しかし、忘れてはならないことは、どの活動も、活動を通して生徒に何を学ばせるのか、どのような力

を付けるのかという教育的目標を有しているということです。このことをよく理解し、教師という立場での教育的な観点を踏まえた対応を学ぶことが大切です。

そして、教育活動の中心はやはり授業であり、教師の力の中心は授業力です。教師には、授業を通して、児童・生徒に、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせ、「学びに向かう力や人間性等」を涵養することが求められています。

教育実習で最も力を入れ身に付けてほしいのは、授業力の基礎です。授業力の基礎として、学習指導要領を理解し育成を目指す資質・能力を明確にした授業のイメージを持つこと、授業展開に必要な基礎的なスキルを獲得することが必要です。指導教官の授業をよく観察することから始め、授業の構想、指導案の作成、授業の実践、振り返りと課題の把握など全力で取り組んでほしいと思います。

私は、授業を観察する際の観点として次の4つを重視しています。参考にしていただければ幸いです。

- ①授業の目標（生徒に付けたい力）が適切か。
- ②目標に沿って適切に授業を展開しているか。
- ③適切な発問を行っているか。
- ④生徒の興味・関心を高め、力をつける工夫をしているか。

(3) 考察する。

これまでの学習と教育実習での経験を総括し、自分にとっての課題は何か、教職を目指すに当たってどう取り組んだらよいか考察してください。教育実習は実践を通して、自らの適性や進路を考える重要な機会です。そのため、事前学習、事後の考察ともに十分に行い、実習を意義あるものにしてほしいと思います。

「その子らしさ」

別府市教育委員会学校教育課

指導主事 長嶺 敏雄

先日は、ご清聴ありがとうございました。

話の中で、大人の論理や都合で授業構想・授業展開するのではなく、子どもの出方を具体的に想定した授業構想や子どもの思考に沿い、情意面の高まりを大切にされた授業実践について思うところを述べさせていただきました。

教員になった頃の私は、目に見える子どもの姿をそのままに受け取り、その言動に対する言葉かけや指導を行っていたように記憶しています。しかし、今、考えると、そのような行為は、子どもを表面的にとらえ、その子どもの言動の背景にまで目を向けていなかったように思います。これまでの教師生活の中で、私自身の子どもの対する見方が変化したのは、これまで出会ったたくさんの先生方の教育観にふれ、自分なりに自身の教育観を見つめ直したからではないかと思っています。

一人ひとりの子どもは、それまでの生活経験や学習経験から、その子らしいものの見方や考え方をもっています。それが、日常生活のあらゆる場面において、その子どもの言動となって表面に現れます。逆に考えると、一人ひとりの子どもの言動の奥には、その子なりのものの見方や考え方が必ず存在するという事です。

一人ひとりの子どもの生き方を豊かにするためには、その子どもの見方や考え方に揺さぶりをかけ、その子自身が見方や考え方を再構築する（広げ、深める）ことができる日々の授業が求められます。授業での子ども同士のやり取りが、知識に基づく子どもの考えの域で落ち着くのではなく、子どもの考えの背景（「なぜ、そのように考えたのか」「どのようにして、そのような考え方に到達したのか」等）が話題となり、問題となるような授業が求められるのではないかと思います。

教育実習では、子どもの中に「考えたい」「解決



したい」「話し合いたい」という願いが生まれる授業づくりをめざしてほしいと思います。子どもの心が動き、願いが生まれることは授業の出発点であり、子ども同士の本気で伝え合う姿につながります。そして、子どもの本気の奥にある「その子らしさ」を見逃さず、子ども理解やその後の授業づくりにつなげてほしいと思います。

みなさんの今後のご活躍を祈念申し上げます。

「教育実習が教職の原点に」

別府市教育委員会学校教育課

指導主事 千葉 優子

私が行った初めての授業はどんなだったろう。これから教育実習に向かう学生さんたちを前にそんなことを思いました。緊張して、きっと失敗であったと思いますが、あのとき子どもたちとの出会いのおかげで教員を続けてこられたと思います。初めて子どもたちに発問を投げかけたその時、瞳を輝かせて「はい」と手を挙げた子どもたち。「わかった」という気持ちを意欲的に反応してくれたその様子。私にとっていつも授業づくりで目指す姿となりました。「できた、わかった」から生まれる喜びを教室に広げたい、今日もあのキラキラした瞳に出会いたいという思いが試行錯誤を繰り返す原動力でした。

教育実習中に学んだことは、1つひとつの授業に責任を持つという姿勢の大切さです。年間指導計画に基づいて単元計画があり、さらにその中で本時の授業の位置づけがあるということ。「木を見て森を見ず」という言葉にあるように、授業が場当たりのになってはならないことを学びました。子どもたちにとって、1つの授業はその内容の1度きりの学びの機会。十分に子どもたちが役に立たと実感できる授業内容であるべきです。どんな子どもでも知的好奇心と向上心を持っています。それを励まし、どんな方法がその子の成長の支えになるかを考え続けることが教員としての一番の仕事だと思います。



子どもの学びの場面は授業だけではありません。学校生活の全体が子どもの成長の機会となるべきです。生徒指導の側面からの子ども理解の上で、学校全体で子どもたちを見守る体制が教員に求められます。「社会の中で自分らしく生きることが出来る大人」へ子どもたちが育つように、一人ひとりの子どもの得意なことや好きなこと、興味のあることなどを十分に把握し適切に支援することを心がける必要があります。また、子どもの行動の背景には必ず、家庭や友だちとの人間関係があります。なにかトラブルがあったときには教員一人で解決しようとせず、その子の生活背景に課題がないかを探り、その子に関わる他の教師や保護者と協力して解決することが大切です。ケースによっては地域の方々や学校外の支援機関、医療機関等とも連携し、様々な専門家とつながることもあるでしょう。全ては子どもの幸せのために、いろんな視点でその子を見守っていく温かな育みを広げることは学校の教員がなすべきことです。子どもにとって「幸せな先生」とは、自分のことをよく理解し、支援の機会をいつも周りに準備してくれて、成長や解決へ導いてくれる先生だとも言えます。

皆さんがこれから向かう教育実習では、子どもに親切に接し、子どものためにどうしたらいいか一生懸命考えて下さい。そうすれば教育実習に必ず実りがあり、たくさん子どもや先生との素敵な出会いがこれからの皆さんの教員人生を支える経験になると思います。多くの学びがありますよう応援しています。

教育実習の実際

明豊中学・高等学校

教頭 樋口 康子

2018年11月の講義で、教育実習は生徒と関われる素晴らしい機会であり、皆さんには強みがあることをお伝えしました。幼、小、中、高、そして今も大学で授業を受けている皆さんは、教育の受け手としての体験や気持ちを理解



しているという事です。心に残っている先生を思い浮かべ、また具体的な目標を頭に描いて教育の現場に踏み込んでみましょう。

事前の大切なポイントを4つあげました。(1)教育実習の目標・内容を理解する。教育実習の目標は「教育の実際を体験し、教材研究の方法と指導法の基礎を研究し指導に必要な資質を高める」ことにあります。教員免許状取得のための必修科目であり、学びの到達点、そして教師になるための出発点になるものです。「授業」の実習だけでなく特別活動や生徒指導等、あらゆる教育の仕事について学びます。(2)教育者であると同時に被教育者としての自覚を持つ。生徒からは「先生」と呼ばれ、同時に実習をしている学生ですから被教育者でもあります。わずか2、3週間の実習ですが、日々成長、発達をとげている児童・生徒に与える影響の大きさを忘れず「社会人」として自覚と責任のある行動をとってください。(3)実習校の教育の理念について理解する。実習生は実習校の方針に基づいて行動しなければなりません。学校の特色、生徒の状況、学校行事等を調べましょう。各学校のホームページからは手軽に情報収集ができます。必ずチェックしましょう。(4)実習オリエンテーションを受ける。実習校に事前連絡・訪問をして実習指導教師やホームルーム担当教師と打ち合わせを行います。教育実習の概要、行事予定、日課表、授業時間、配属されるクラス等の説明を受けます。

いよいよ実習開始です。3つの場面に分けました。① 導入過程…職員朝礼からスタートしますが、それまでに職員室の黒板を見て日程の確認等を行います。1週目は自分の教科に加えてHR、行事、クラブ活動、他教科の授業、生徒とのコミュニケーションを通じて生徒とのかかわり方を学び、生徒理解を深めましょう。② 実習過程…実際に教壇に立ちます。授業毎に指導教諭の指導を受けながら学習指導案を作成します。「導入」では、今日は○○○について学ぶという、その時間の目標を伝えることが大切です。また、「展開」ではアクティブラーニングの手法を取り入れた授業など、主体的・対話的で深い学びの実現が求められるようになってきました。③ 整理反省過程…授業終了後は指導教師の指導を受け、次の授業内容の向上を目指します。最

終週には研究授業を行い、反省会では指導教師を始め、授業を参観した多くの方にアドバイスや指導をいただきます。

その他注意すべきことを挙げておきます。①守秘義務・個人情報保護に努める。(この実習で知り得た学校、生徒等に関するすべての情報を口外してはならない。) ②実習日誌はその日のうちに指導教師に提出する。③欠勤、遅刻、早退する場合には必ず事前に届け出る。④実習控室の整理整頓に努める。

教育実習の実際について実習心得、取り組み方、指導法等、本校の実情に則してお話しました。教育実習は社会のどの分野にも役立つインターンシップという側面を持っており、教育者としての能力や適性を自ら問い直す機会でもあります。この機会を有効に使って、ぜひ自分の進路について具体的に考えていただきたいと思います。

本校の校訓は夢・勇気・愛です。実習生を受け入れる学校側も積極的に皆さん方の夢の実現に協力したいと思います。教師というやり甲斐のある目標に向かってしっかり努力してください。

『人間関係づくり』を大切に

大分県教育センター 教育相談部
指導主事 利光 直美

教育実習の事前指導として「社会情勢と教育課題」「学級集団づくり」「求められる教師像」の3つの視点で講義をしました。メモをとりながら真剣に講義を聴き、構成的グループエンカウンター活動に意欲を持って取り組む皆さんに、教師としての素養を感じました。



今の児童生徒に求められているのは、変化の激しい時代の中で、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自らの能力を引き出したり、試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値観を生み出していくために必要な力を身につけることです。児童生徒

にこのような力をつけていくための一つとして、「学ぶに向かう学級集団づくり」が大切であることをお伝えしました。学習指導要領(平成29年度告示)の総則では、児童生徒の発達を支える指導の充実として、「よりよい人間関係」を育てること、「ガイダンス」と「カウンセリング」の双方により児童生徒の発達を促すことが謳われています。つまり、「よりよい人間関係」は児童生徒が有意義な学校生活を送る上でも不可欠であり、児童生徒が自己実現を図っていく過程において、教師はカウンセリングマインドという教育相談の考え方をもって、児童生徒の自己選択や自己決定を支援していくことが必要であるということです。

「学びに向かう学級集団」には、「ルール」と「リレーション」が同時に確立していることが必要であり、まずは学級内で誰にも傷つけられないという「ルール」を確立しておくことが求められます。その上で、縦糸づくりとなる児童生徒と教師のリレーションづくり、横糸づくりとなる児童生徒同士のリレーションづくりを行うことが重要です。教育実習で授業を行う際にも、この2点には留意してもらいたいと思います。「ルール」と「リレーション」の確立には時間も手間もかかりますが、どちらも些細なほころびですぐに壊れていきます。授業の中で「ルール」に沿った行動ができない児童生徒がいたときには、短絡的に教師の指示に従わせようとするのではなく、その児童生徒の心理的な事実を捉え、I(アイ)メッセージでの縦糸づくりに努めながら、導いていくことが重要です。ともすれば、熱心に指導をしようとするあまり、児童生徒の短所やできていないことに目が向きがちになってしまいますが、長所やできていることを承認することを心がけ、児童生徒の自己実現を支援することを大切にしてください。

最後に、教師は悩み考えることが尽きない職業ですが、「チーム学校」の一員としてコミュニケーションを大切に、常に学び続けることで、変化の大きい時代を生き抜いていけるとと思います。教育実習では、児童生徒並びに教師集団との人間関係づくりを大切に、学びの多い実りあるものとなるようお祈り申し上げます。